

然かもしれません。いちき串木野市は「市来」という地名がありますが、徐福の別名は徐市（じょふつ）で、「徐市が来た町」という意味があるようです。（注）平成17年10月11日市来町と串木野市が合併し、いちき串木野市となりました。



いちき串木野市にある長崎鼻 ここから東に照島海岸が続きますが、上陸地点としてふさわしいところかもしれません。



照島海岸

いちき串木野市在住の方より情報をいただきました。それによると、照島海岸とつながる照島には照島神社があり、ここに行くのに赤い欄干の橋を渡るそうです。この橋を渡ったところに石碑があり、それには徐福が上陸したことが書かれているそうです。さらに島の奥まで行くとそこは東シナ海が目の前に広がります。



冠岳



西岳と徐福像

冠岳は西岳，中岳，東岳からなる山で，薬草が多く自生していたと言われています。

西岳（標高516m）は中国古代の冠の形に似ています。冠岳という名前はそれが元になっていると言われますが、別説として、冠岳にたどり着いた徐福が自らの冠をとり、ここで封禪（ほうぜん）の儀式を行って冠をここに留めたからついた名という説もあります。「封禪は天と地に王の即位を知らせ、天下が太平であることを感謝する儀式である。」（フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』より）また、冠の紫の紐を納めた山が紫尾山です。この地でこのような重大な儀式を行ったということは、徐福自身が中国には帰らず、国をつくり、自ら王となるという意思の表れとも考えられます。